

徳島地域連携協議会

徳島地域連携協議会は、下記の「設置」目的に則って、平成15年2月4日に設置されました。平成26年4月までに徳島県、県内全ての市町村、徳島県市長会、徳島県町村会と連携協定締結し、平成26年8月29日に開催した「平成26年度徳島地域連携協議会」には、全ての自治体に参画いただきました。

徳島大学側の窓口である研究・社会連携部地域創生課に事務局が置かれていて、県側の窓口は徳島県政策創造部総合政策課となっています。

(平成29年3月現在)

徳島地域連携協議会設置要項

(設置)
第1 徳島県、徳島県下の全市町村、徳島県市長会、徳島県町村会及び徳島大学は、地域の雇用創造、産業振興への貢献、地域の課題解決への貢献、地域のイノベーション創出人材の育成等の地域の再生に向けて、連携・協力を行うため、徳島地域連携協議会(以下「協議会」という。)を置く。
(業務)
第2 協議会は、次の業務を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域連携の企画・調整に関すること。 (2) 連携事業ニーズに係る情報収集に関すること。 (3) 連携事業の実施計画に関すること。 (4) 実施される連携事業の広報に関すること。
(組織)
第3 協議会は、別表に掲げる委員をもって組織し、会長及び副会長は、同表に示すとおりとする。
(会長及び副会長の職務)
第4 会長は、協議会を招集し、その議長となる。 <ol style="list-style-type: none"> 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
(運営会議)
第5 協議会が行う業務について審議するため、運営会議を置く。 <ol style="list-style-type: none"> 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ運営会議を開くことができない。 3 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(代理出席)
第6 第3の委員が運営会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。
(委員以外の者の出席)
第7 協議会が必要と認めるときは、運営会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
(庶務)
第8 協議会の庶務は、徳島大学研究・社会連携部地域創生課において処理する。
(雑則)
第9 この要項に定めるもののほか、協議会について必要な事項は運営会議の議を経て定めるものとする。
(略)
附 則
この要項は、平成28年4月1日から実施する。

徳島地域連携協議会構成員 (平成29年3月現在)

徳島県	政策創造部県立総合大学校本部長	副会長
	各部局主管課長	
	南部総合県民局経営企画部長	
	西部総合県民局企画振興部長	
	県立総合教育センター所長	
徳島市	大学連携担当部課長	
鳴門市	大学連携担当部課長	
小松島市	大学連携担当部課長	
阿南市	大学連携担当部課長	
吉野川市	大学連携担当部課長	
阿波市	大学連携担当部課長	
美馬市	大学連携担当部課長	
三好市	大学連携担当部課長	
勝浦町	大学連携担当課長	
上勝町	大学連携担当課長	
佐那河内村	大学連携担当課長	
石井町	大学連携担当課長	
神山町	大学連携担当課長	
那賀町	大学連携担当課長	
牟岐町	大学連携担当課長	
美波町	大学連携担当課長	
海陽町	大学連携担当課長	
松茂町	大学連携担当課長	
北島町	大学連携担当課長	
藍住町	大学連携担当課長	
板野町	大学連携担当課長	
上板町	大学連携担当課長	
つるぎ町	大学連携担当課長	
東みよし町	大学連携担当課長	
徳島県市長会	事務局長	
徳島県町村会	事務局長	
徳島大学	副学長(地域・産官学連携担当)	会長
	地域連携戦略室の構成員	

日時：平成29年1月29日(日)

13時00分～16時00分

場所：徳島大学フューチャーセンター『A.BA』

主催：徳島大学地域連携戦略室、地域創生センター、那賀町地域再生塾、上勝学舎、美波町地域づくりセンター、にしあわ学舎、神山学舎

協力：一般社団法人Future Center Alliance Japan(FCAJ)

開会挨拶：徳島大学理事(地域・産官学連携担当)・副学長 吉田 和文

趣旨説明：地域創生センター長 吉田 敦也

【特別講演】

演題：「生活文化資産からのイノベーション」
一般社団法人Future Center AllianceJapan(FCAJ)
代表理事 多摩大学大学院経営情報学専攻教授
KIRO株式会社代表 紺野 登

【ピッチトーク】

■FCAJから

- ・100年時代のライフシフト
コクヨ ワークスタイル研究所 齋藤 敦子
- ・北大と日立の連携事業
日立製作所 東京社会イノベーション共創センター 沖田 京子
- ・日立の地方創生事業
日立製作所 地方創生プロジェクトリーダー 古谷 純
- ・A.BAのオープニングから1年を振り返って
文部科学省 基礎研究推進室長 斉藤 卓也
- 地元パートナー、移住者、アソシエイツから
- ・田舎町での居候構想
先祖代々の家を活用した民宿「作良家」オーナー 中谷 秀久
- ・いま神山がおもしろい
NPOグリーンバレー事務局長、AirBnB経営 竹内 和啓
- ・まちを耕す
移住者、WEEK神山で食をデザイン 植山 美里
- ・コミュニティの資源とおもてなし
総合リゾート運営企業社員 長井 恭平

■ライフスタイル展示

- ・スープのような生き方
移住者でモリグチャウダー経営 森口 耕二
- ・ちょっと休ませてもらってもいいですか
秋田町の小さいパイ屋さんKoya経営 木内 康勝

■フューチャーセッション

富士通エフサスみなとみらいInnovation&Future Center
イノベーション・ファシリテーター 岸本 伴恵

概要

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取り組みについて協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で13回目となりました。

今回のタウンミーティングは、県内5ヶ所に設置している本学サテライトオフィスの連携事業として開催し、広く徳島県全体を対象に自治体や関連団体の関係者及び高校生ら約70人の参加がありました。

吉田和文徳島大学理事(地域・産官学連携担当)・副学長の開会挨拶に続き、国内におけるフューチャーセンターをはじめとする、イノベーションの方法論の研究と普及、実践の推進を目的に活動されている、一般社団法人Future Center Alliance Japan(FCAJ)代表理事で多摩大学大学院経営情報学専攻教授の紺野 登氏が「生活文化資産からのイノベーション」と題して、フューチャーセンターの視点、設置の仕方や運営、成果の反映方法等について特別講演を行いました。

続いて行ったフューチャーセッションでは、各サテライトオフィスに関係する自治体や関連団体等の代表者を交え、移住の促進と支援の観点から、知の交流デザインや移住プランニング、大学サテライトオフィスの役割、民泊

(Air BnB)、ガーデンカフェデザインなどについてワークを進め、参加者全員で「5つのサテライトにみる徳島ライフとは?」、「スタディホリデイ等、新たな徳島(阿波)民を呼びこむ仕組み」の2つのテーマについて議論し、「大学生が神山町に住み、農作業を体験しながら大学に通う」、「地震や津波に強い研究者らが集う地域にする」などのアイデアが出され、盛況のうちに終了しました。



過疎と津波から地域を残すために ～海山連携で新たな未来を切り拓く～

開催主旨

■ 地域創生センターも支援して過疎と津波から美波町を次世代に継承する住民主体の事前復興まちづくりをすすめて来たが、その中で海側地域だけでは解決できない課題もあり、山側の地域と防災・地域づくり連携を進めていくことになった。本事業では、海山地域の参加者で、お互いの地域の現状や取組を知り、海山連携で新たな未来を切り拓く方法について語り合うことを目的として開催する。

日時：平成28年12月18日（日）

13時30分～17時05分

場所：第1部 美波町由岐公民館2階大会議室

第2部 阿南市福井公民館福井南分館

主催：徳島大学地域創生センター、徳島大学・美波町地域づくりセンター、東由岐防災会、西の地防災きずな会、西由岐防災会、小野自主防災会

共催：美波町

【第1部 会場：美波町由岐公民館2階大会議室】

開会挨拶 徳島大学副理事 山中 英生

西の地防災きずな会会長 酒井 勝利

海地域を知ろう

- ・津波から安全な高台住まい確保の取組
- ・事前復興まちづくり計画作成の取組

海山地域の現状を知ろう

- ・T型集落点検ワークショップの結果報告

コーヒーブレイク

第2部会場へ移動

【第2部 会場：阿南市福井公民館福井南分館】

山地域を知ろう

- ・小野地区のタウンウォッチング

海山連携について語ろう

- ・皆でおしゃべり（フューチャーセッション）
- ・テーマ1：「由岐と小野との関係性は？」
- ・テーマ2：「由岐と小野の自慢と悩みは？」
- ・テーマ3：「由岐と小野で連携してできること・したいことは？」

開会挨拶 徳島大学副理事 山中 英生

小野自主会会長 井坂 好志

概要

今回のタウンミーティングは、同大学が美波町との間で締結した「持続可能なまちづくり」を目的とした連携協定に基づき設置した「徳島大学・美波町地域づくりセンター」が中心となり開催したもので、約70人の参加があった。

第1部では、山中副理事および西の地防災きずな会酒井会長の開会挨拶に続き、「海地域を知ろう」では、徳島大学地域創生センター学術研究員井若和久氏より「津波から安全な高台住まい確保の取組、由岐湾内地区自主防災会連

合会事務局長浜大吾郎氏より「事前復興まちづくり計画作成の取組」について紹介があった。続いて行われた「海山地域の現状を知ろう」では、熊本大学名誉教授・徳野貞雄氏より「T型集落点検ワークショップの結果報告」があり、「ゆったりカフェみなみ」によるコーヒーブレイクを挟んで第2部会場に移動した。

第2部では、まず「山地域を知ろう」として、小野自主会井坂会長案内のもと「小野地区のタウンウォッチング」の行い、小野地区の地域・防災資源を知った。最後に「海山連携について語ろう」では、皆でおしゃべり（フューチャーセッション）を行った。「由岐と小野との関係性」や「由岐と小野の自慢と悩み」についてお互いの地域が教え合う形で意見交換して共有した後、「由岐と小野で連携してできること・したいこと」についてアイデアを出し合った。両地域は、一昔前まで地域間交流をしていた歴史があり、今後は海山地域の強みと弱みをお互いで享受・助け合いながら、合同の避難訓練やゴミ拾い、食事会等を開催し、防災・地域づくりの交流を深めていくことになった。

今回の取組は、過疎と津波から地域を残すために、海山連携がより進んでいくことが期待できる。

